

アーティスト ステートメント

私は、動植物を眺めていると好奇心がわき上がり、心が動く。希少な生きものでなくても動植物は、変化に富んでいて多種多様。長大な地球時間を生き抜いてきた姿形や特徴は目を見張るものがあり、とても美しい。忘れてしまいがちだが、人間はその一部でしかない。作品制作を初めてころより、その自然観や社会観を込め、時に擬人的に生きものを表現してきた。

「自然は偉大なる師、芸術における回答は自然のなかに出ています。」と語ったアントニオ・ガウディの建築物にも関心があった。ガウディの建築物は装飾的に見えるのだが、植物から得られた曲線は独特なバランスがあり、特に内なる空間は、体内のような非日常さが印象的だった。

私は「生命力」を模索している。逞しく、儂く、時としてハーモニーを奏でる生命力。作品には、光や畏怖の念を暗示する「鏡片」 水を暗示する「樹脂」 無垢を暗示する「布」 社会を暗示する「文字」などの素材を組み合わせて制作している。

作品は個で成立しているが、同形の作品を集合展示することで「空間」「環境」の表現を試みている。

今回の作品「泳ぐ」は、シーラカンス作品を吊して構成することで、作品とその影、揺らぐ鏡のリフレクションなどが作る「空間」が、個々の記憶にフィードバックすることを狙ったものだ。

このシーラカンスは最初 1994 年に制作し、作り重ねている。

マダジュンコ